

平成25年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
農産部門

栽培技術の研鑽、ニーズに応じた生産・販売で地域農業の発展に貢献

○氏名又は名称 有限会社 おっとちグリーンステーション（代表 柳 潤一）

○所在地 宮城県登米市

○出品財 経営（大豆）

○受賞理由

・地域の概要

登米市は宮城県の北東部に位置し、西部は丘陵地帯、東北部は山間地帯となっており、その間は広大・平坦で肥沃な土地を形成。県内有数の穀倉地帯となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成7年に設立。大きく稲作、大豆、野菜の3つの部門で構成した複合経営の組織で、3戸の共同経営の形態となっている。

転作が本格的になった平成12年頃から、隣接集落の転作組合と共同で受託耕作するシステムを構築することにより、20haのブロックローテーション体制となる。

・受賞者の特色

(1) 高収量・高品質生産への取組

- ① きめ細かい水溝管理や排水対策の徹底、ライ麦のすき込みによる連作障害の回避等により、過去3年平均で300kg/10aを超える安定した高収量を維持。
- ② 汚粒軽減のため、経験のあるオペレーターによる適期の収穫作業の徹底、堆肥散布や丁寧な中耕・培土により高い収量と品質を確保。
- ③ 隣接の転作組合と協力し、一経営体の枠を越えて大豆作2年、水稻作4年の3ブロック6年の大規模なローテーションを実施。

(2) 種子生産

高い栽培技術が評価され、県原種苗センターからの委託により県内供給用の高品質な大豆種子生産を2.1haで実施しており、種子生産の面からも地域の大豆生産を支えている。

(3) 販売・消費拡大への取組

- ① 実需者のニーズを踏まえた全量契約栽培を実施している。全量農協に出荷し、問屋を通じて「ミヤギシロメ」は味噌、「タチナガハ」は豆腐や菓子の原材料として大手食品加工業者と取引されている。また、年に数回、取引のある大手豆腐業者と現地検討会を開催し、大豆についての情報交換を行い、実需者ニーズの把握に努めている。
- ② 野菜をパウダー化する技術を食品販売会社と共同開発して独自商品の展開に取り組むほか、肥料メーカーと食品残渣を利用した肥料を共同開発し販売に向けて取り組むなど、経営の多角化に取り組んでいる。

・普及性と今後の発展方向

大豆の契約栽培や、農産物加工食品製造、肥料の製造・販売など経営の多角化を図っている。また、周年雇用を確保するとともに、雇用者へ技術や経営のノウハウを日々伝承するなど、技術、経営、雇用、後継者育成として地域の先駆者として活躍しており、地域の見本となる経営がなされている。

引き続き栽培技術を向上し、土づくりに重点をおいた高品質作物の安定生産に取り組むと同時に、付加価値の高い商品開発を通じ6次産業化を進めることを目指している。